

## 【概況】

●8日、米国とカナダを結ぶ送油管「キーストン・パイプライン」が稼働を停止していると伝わり、この日はオーバーナイトで一時80ドル目前に上伸。しかし、操業再開の報に伴って買いが細り、朝方にはマイナス圏に沈んだ。また、中国政府は今週、今年の経済成長率目標を「5%前後」に設定したものの、一段の景気刺激策が必要とみる向きが多い。また、米欧の利下げ開始時期を巡っても依然不透明感が強く、需給の緩みに対する警戒感が投資家心理を圧迫し相場は78.01ドルへ続落しました。

●11日、米消費者物価指数(CPI)の発表を控え、朝方の外国為替市場ではユーロなどの主要通貨に対してドル買いが先行。これがドル建て商品の割高感につながり、原油相場は一時76.80ドル付近まで下落した。しかし、その後ドルが上げ幅を削ると、相場は反転。前週末8日発表の米雇用統計が弱めの内容となったことで、連邦準備制度理事会(FRB)が今年半ばまでに利下げを始め、エネルギー需要を下支えするとの観測が買い戻しの流れを後押し相場は77.93ドルへ続落しました。

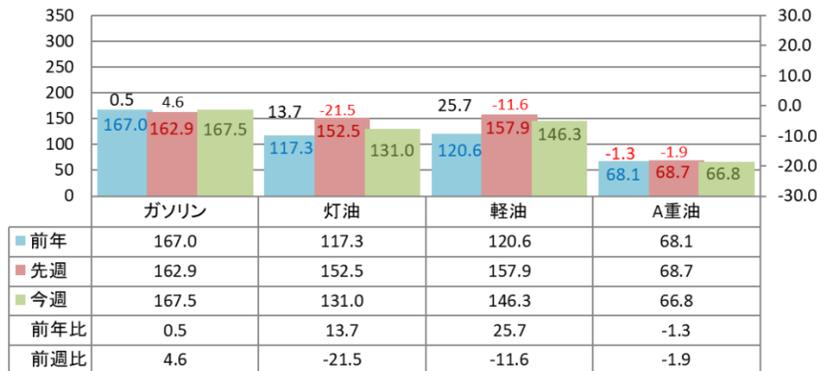
●12日、朝方発表された2月の米消費者物価指数(CPI)は前年同月比3.2%上昇、変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア指数は3.8%上昇と、ともに市場予想をやや上回る内容となった。これを受けて、米連邦準備制度理事会(FRB)による利下げが後ずれするとの観測が強まり、対ユーロでドルが上伸。ドル建てで取引される商品の割高感につながり、原油が売られ相場は77.56ドルへ続落しました。

●13日、米エネルギー情報局(EIA)がこの日発表した8日までの1週間の米石油在庫統計によると、原油在庫は前週比150万バレル減となり、市場予想(130万バレル増=ロイター通信調べ)に反する取り崩しとなった。加えて、ガソリン在庫は570万バレル減と取り崩し幅は市場予想の190万バレル減を上回った。これを受け、需給引き締め観測が台頭し、原油は買い進まれ相場は79.72ドルへ反発しました。

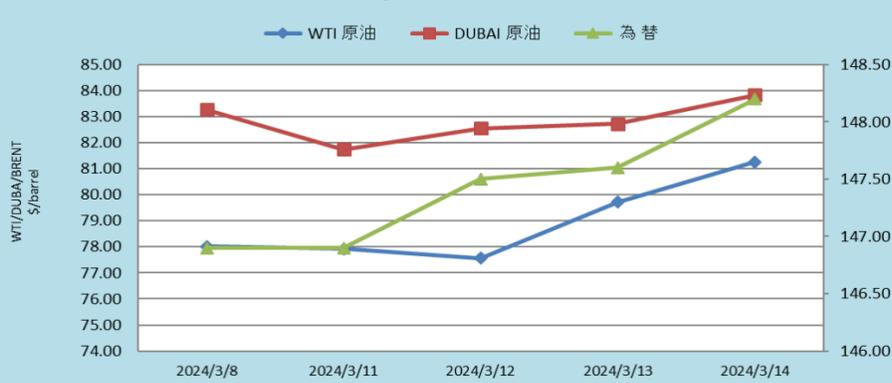
●14日、国際エネルギー機関(IEA)は14日発表した月報で、2024年世界需要の見通しを従来予想から上方修正する一方、24年の供給見通しを引き下げた。前日には米エネルギー情報局(EIA)が、週間の原油在庫が前週比150万バレル減(市場予想130万バレル増=ロイター通信調べ)、ガソリン在庫も570万バレル減(同190万バレル減)と発表。ともに予想を上回る取り崩し幅となっていた。これを受けて、需給が引き締まるとの見方が強まり、相場は81.26ドルへ続伸しました。

3月15日 16:00現在 WTI原油 81.10ドル 為替 1ドル 149.59円

### 国内石油製品在庫 3月9日時点



### ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



	次回元売変動予測	
	3/21~	元売変動予測
ガソリン	➡	0.1~+0.6
灯油	➡	0.1~+0.6
軽油	➡	0.1~+0.6
A重油	➡	0.1~+0.6
L S A	➡	0.1~+0.6

## 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「▲0.5円」、補助金は、「-21.1円・60%」、都合「+0.1円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの11日時点の小売価格平均は174.3円となっております。

《3月21日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「0.5円~1.0円」、激変緩和補助金は「-21.5円・60%」の見込みで、都合「+0.1円~+0.6円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「0.5円~1.0円」  
 ※激変緩和補助金「-21.5円」前週比-0.4円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】 <JR東日本が営業運転へ、「水素ハイブリッド電車」>

JR東日本は28日、鉄道の脱炭素化に向けて2022年3月から実証試験中の水素ハイブリッド電車の試験車両「HYBARI(ヒバリ)」の走行試験を報道陣に初めて公開した。水素と酸素を反応させて発電する燃料電池と蓄電池をハイブリッド制御して走行する。公開実験では鶴見線の鶴見一扇町間を走り、通常の電車と変わらない安定した走行性能を示した。

実証試験は24年度末に終了し、30年度の水素ハイブリッド電車の営業運転を目指して設計検討に入る。航続距離を延ばすため水素搭載量の増加や燃料電池の高出力化を検討し、車両形状も最適化する。水しか排出しないため、内燃機関搭載車を切り替えれば、走行時の二酸化炭素(CO2)排出量を削減できる。

ヒバリは架線から集電するパンタグラフがなく、車両上部に水素タンク、下部に燃料電池や電力変換装置などを搭載している。加速時は燃料電池で発電し、減速時はエネルギーを回生して蓄電する。それ以外は蓄電池の残量に応じて発電する。電力消費などの状況に応じて発電出力の大きさを変えて、水素消費量を少なく抑える制御方法を追求している。

[出典] ニューススイッチ <https://newsswitch.jp/p/40692>